

2008年～2009年 活動ニュース

2009年

■ ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟の総会が開催されました。 1月20日



あいさつする浜四津副会長（右）、
浜田事務局長（中央）と橋本事務局長次長（左）

1月20日東京都内において、ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟の総会（津島雄二会長）が開催された。本総会には国会議員、外務省、厚生労働省、結核予防会、日本医師会、日本リザルツ、ストップ結核パートナーシップ日本らが参加した。具体的にはストップ結核ジャパンアクションプラン、結核の予算について、結核医療費、病棟・病室のあり方について報告・討議された。さらに年越し派遣村で結核患者が発見されたニュースなど、早急な対策が求められている結核の課題について話し合われた。

■ ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会 2月6日



津島ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟会長の開会の挨拶の後、以下の議題について報告・発表が行われた。進行は浜田ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟事務局長が務めた。本会に参加をしていた米国リザルツ教育基金のマシュー カヴァナ氏も意見を述べ、活発な意見交換が行われた。

①世界基金について

- 山本 正氏—財団法人日本国際交流センター理事長
- 稲場 雅紀氏—特定非営利活動法人アフリカ日本協議会理事
- 山本 栄二氏—外務省国際協力局参事官

②ザンビア・マニラ結核対策プロジェクトについて

川口 三男—外務省国際協力局民間援助連携室長

金子 洋—財団法人結核予防会 専務理事

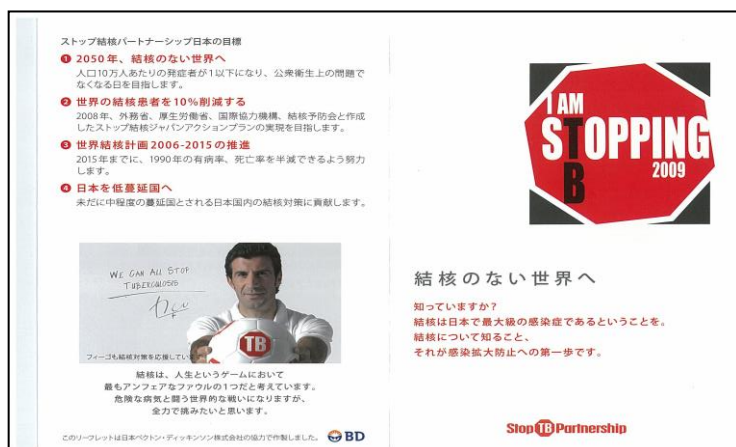
山田 紀男—財団法人結核予防会結核研究所 国際協力部長

■アフリカンフェスタ 5月16日 - 17日

5月16日・17日の二日間に渡り、外務省主催のアフリカンフェスタ 2009 が横浜の赤レンガ倉庫イベント広場において開催され、18万人が参加しました。

昨年引き続き、ストップ結核パートナーシップ日本（STBJ）は結核予防会、結核予防会結核研究所、日本リザルツと協力して結核の普及啓発活動を行いました。

また本活動では、STBJ 団体会員の一つである日本ベクトン・ディッキンソン株式会社の協力で作製した STBJ リーフレットを来場者に配布しました。



■ ストップ結核パートナーシップ韓国設立の支援活動を行いました 6月16—18日

6月16日から18日まで、ソウルで「ストップ結核パートナーシップ韓国」設立の支援活動を行いました。具体的には、STBJの経験を基に、設立までの事務的作業、事業計画内容、運営資金・会員の獲得、官・民のパートナー組織との協調に関する提言を行い、韓国結核予防会、結核研究所、国際結核研究センター関係者と協議を行いました。また、国会議事堂で行われた公聴会において日本の経験を披露し、設立推進議員、厚生福祉省を含む関係者と共有しました。最後に、両国 STB が今回の協力を最初のステップとして、今後も緊密な協力関係を築いていくことで合意しました。



■ 耐性結核新薬開発基金が設立されました。 7月1日
Stop TB Partnership Japan launches research fund

1 July 2009 - Tokyo - Following the announcement during the press conference at the Ministry of Health, Labor and Welfare, Japan last week, Stop TB Partnership Japan (STBJ) launched the “M/XDR-TB Frontier Fund” on 1 July. The purpose of the Fund is to contribute to the global TB control, by supporting the advancement of clinical trials for new TB drugs and diagnostics under development by private Japanese enterprises in developing countries, based on the directive to “create an environment that facilitates the development of new TB drugs, new diagnostics, and so on from around the world, as well as early practical application”, prescribed in the “Concrete Actions” of the STBJ Action Plan.

In order to achieve the above purpose prescribed, the Fund will perform activities to provide grants-in-aid to health facilities in developing countries deemed capable of conducting clinical trials in accordance with International Conference on Harmonization-WHO Good Clinical Practice (ICH-GCP) standards. The money of the Fund will be donated by all organizations and individuals that acknowledge the essence of the Fund. The grants-in-aid will be used for construction or renovation of hospital wards and microbiology lab facilities, provision of diagnostic and IT equipment, staff training and information sharing with individuals and institutions involved in the trials.

The secretariat of the Fund is seated within STBJ. To ensure transparency and impartiality of the Fund, an Executive Committee of five to six qualified experts will be established under the secretariat. The Committee will evaluate any counsel or advice, received from STBJ pertaining to the operations and management of the Fund and decide on the course of action for the effective and efficient utility of the Fund.

■政府開発援助等に関する特別委員会での質問 7月1日

7月1日 政府開発援助等に関する特別委員会（第5回）で浜田昌良参議院議員の「耐性結核新薬開発基金」（以下基金）に関する質問があり、渡辺孝男厚生労働省副大臣がお答えになりました。この基金に関連して7月23日、渡辺孝男氏に「耐性結核新薬開発基金」に関する要望を提出いたしました。渡辺厚生労働省副大臣は「耐性結核新薬開発基金」の意義について理解を示されました。

■ 結核研究所で「ストップ結核アクション研修」の支援活動を行いました 7月23日

結核研究所で実施中の「ストップ結核アクションプラン研修」に参加し、抗結核薬薬剤管理（TB drug management, TBDM）に関する講義を行いました。講義では、16名の研修生（途上国結核対策担当官）とTBDMの原則、各国の問題点・改善案等について議論を重ねると共に、TBDMの実態調査、巡回指導実施要領に関する指導を行いました。





■ テレビ会議イベント「結核で私の生活はこう変わった—日本とフィリピン結核患者達が語る！」を開催 9月2日

平成 21 年 9 月 2 日世界銀行東京事務所と JICA フィリピン事務所においてストップ結核パートナーシップ日本（STBJ）はテレビ会議イベント「結核で私の生活はこう変わった—日本とフィリピン結核患者達が語る！」を開催いたしました。本イベントは日本で初めて実施された日本とフィリピ



ピン約 14 名の結核患者の他に医師、メディア関係者、製薬企業、一般の方が参加しました。



本イベントに参加した日本とフィリピンの結核患者たちは結核にかかった際に家族や周囲がどのような反応を示したか、結核薬の服用で困ったこと、結核の

治療費に関して苦労をしたこと等について話し合いました。参加した結核患者達の何人かが結核という病気を発見する機会、治療を受ける機会を得られたことで自分の命が救われたことに非常に感謝し、

ボランティアや職業を通じて自分の経験を他の人に伝えることで他の結核患者の支援をしたいと発言しました。

■ 厚生労働省、財務省、外務省に、平成 22 年度政府予算に関する要望書を提出しました
11 月 30 日/12 月 4 日/12 月 14 日

長妻昭厚生労働大臣、峰崎直樹財務副大臣、福山哲郎外務副大臣（写真）に、政府として約束した世界エイズ・結核・マラリア対策基金に対する拠出額が、平成 22 年度予算の中で確保されること、日本が主要援助国として、世界抗結核薬基金に対する拠出金を増額すること等に関する要望書を提出しました。



■ ハイチ被災者結核対策募金を行いました



第 4 回ハイチ被災者結核対策募金を実施いたしました。
募金の合計金額は 6, 002 円でした。

振り込みによる寄付を受け付けておりますので、
郵便振替口座名：ストップ結核パートナーシップ日本 口座番号：00110-6-262503 に、ハイチ寄付と通信欄に明記し、お願いいたします。これまでの総計は 56, 923 円で、現在、適切な受け入れ先を探しています。

2008 年

■ 国際結核シンポジウムが開催されました。 7 月 24 日-25 日



7 月 24 日、25 日の 2 日間、秋篠宮妃殿下ご臨席のもと外務省、厚生労働省、WHO、結核予防会、ストップ結核パートナーシップ日本の五団体主催で国際結核シンポジウムが開催された。
7 月 24 日には外務省、厚生労働省、JICA、財団法人結核予防会、

ストップ結核パートナーシップ日本が共同で作成した、ストップ結核ジャパンアクションプランが発表された。

詳細

「国際結核シンポジウム『世界における結核の征圧に向けて：アジアからアフリカまで』」

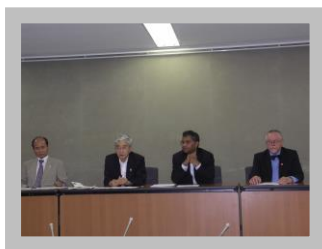
開催日： 7月24、25日

開催場所： 国連大学

国際結核シンポジウムプログラムとストップ結核ジャパン (Stop TB Japan) アクションプラン ～結核の征圧に向けた国際協力に関する官民パートナーシップとの詳細は以下の外務省のホームページを参照ください。

http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/h20/7/1182056_912.html

■ 国際結核シンポジウム成果報告 記者会見 7月25日



7月25日国際結核シンポジウム終了後厚生労働記者会において本シンポジウム開催の成果報告を行った。報告者は石川信克氏（財団法人結核予防会結核研究所所長）、ジェイコブ・クマレサン氏（WHO 神戸センター長）、ドナルド・エナーソン氏（IUATLD シニア・アドバイザー）、小野崎 郁史氏（ストップ結核パートナーシップ

日本理事）であった。

■ 結核国際研修 45 周年記念祝賀会 7月25日



7月25日「結核国際研修 45 周年記念祝賀会 “人材育成は国際協力の柱”」が財団法人結核予防会（JATA）、独立行政法人国際協力機構（JICA）、ストップ結核パートナーシップ日本（STBJ）の三団体の共催により開かれた。ストップ結核パートナーシップ日本推進議員連盟、外務省、厚生労働省、JICA、結核予防会、WHO/WPRO の関係者が本祝賀会に参加をした。

詳細

「結核国際研修 45 周年記念祝賀会 “人材育成は国際協力の柱”」

開催日：7月25日

開催場所：国連大学

■ マンガコンペ優勝者が決定 7月24日

7月24日ポルトガルのリスボンにおいてストップ結核パートナーシップの結核に関する啓発マンガコンペ ルイス・フィーゴとTBカップの結果発表が行われた。

世界中のマンガ専門家および国連機関の代表者による審査により、22作品の中からロッド・エスピノサ氏の作品が選ばれた。優勝をしたマンガは、イーライリリー株式会社の支援を受け、9月より世界中で配布される。パートナーの方々の支援により、当面は8つの言語に翻訳される予定である（アラビア語、中国語、英語、フランス語、ヒンズー語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語）。結果発表は www.stoptb.org もご参照ください。

全作品は <http://www.stoptb.org/figo/csexpo.asp> に掲載されています。